



メルカトルちきゅうぎ「地球儀」

1541年

地球儀直径41cm 全高137cm

製作者ゲラルドゥス・メルカトル（一五二一―一五九四）は、地図投影法の一つ「メルカトル図法」を考案した人物として有名です。十六世紀のフランドル（現ベルギー）の地理学者でした。天理図書館は、彼が一五四一年に製作した地球儀を二基所蔵しています。

そのうちのひとつ、掲出の地球儀は航海用に製作され、空洞の木製球に、銅版印刷した舟底型紙片十二枚の地図を貼り合わせています。真鍮製の子午環で両極軸を支えられた地球儀が、六本の支柱で固定された地平環の内側に入れられ、台座底部にある滑車様の

受けによって、地軸の角度を自由に変えることが出来るようになっていきます。また櫛材製の台座は船上で操作出来る高さに仕上げられています。

球面には地名の記載と、山脈や家紋章などの彩色された装飾図、海洋には船、海獣、航海用コンパス、赤道と黄道などが描かれています。特に航海用に経緯線、斜航線（羅針盤からの方位線）が記入されているのが特徴です。

航海での実際の使用による球面の摩擦と汚れが激しいために、カットの日本図は本館が所蔵するもう一つの「地球儀」からとりました。日本図



「日本図」部分

はイタリアの旅行家マルコ・ポーロの記録『東方見聞録』をもとにアジア大陸の東海上に描かれています。左横の説明書きには、「ジパング島は寶石と黄金で非常に富んでおり、一二八九年タルタル（モンゴル）王フビライ大汗は乗りを試みたが、失敗に帰した」と記してあります。

（天理図書館 澤井勇治）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし12月23～24、27日～休み 年明けは1月7日より開館
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）